

パレスチナにおけるイスラーム社会の変容

—イスラエル・ヨルダン川西岸・ガザ地区を中心に—

丸山直起 編

はじめに

この小冊子は、昭和60～63年度文部省科学研究費の助成に基づく「現代イスラーム社会の変容の総合的研究——思想的背景と現状」の研究成果の一部である。ここでは、焦点をパレスチナ・イスラエルのイスラーム社会にしぼり、その政治的・経済的・社会的変容を考察の対象とした。

中東現代史のなかで、パレスチナほど多くの激動を経験した地域はないであろう。この地のアラブ人社会は、周囲の中東世界の変化の波をかぶり、それにともなって住民の意識が変容していく。今日、イスラエル国内およびヨルダン川西岸地域、ガザ地区で発生している住民の暴動や住民の間に広がる政治運動の高揚は、こうしたパレスチナのアラブ・イスラーム社会が長年にわたり受容してきた様々な変容の必然の成り行きであろう。

このような変容がこれから先どのようなプロセスをたどるかは、イスラエルのみならず、周辺の中東諸国、さらには域外の諸国にとっても無関心ではありえないが、パレスチナのアラブ・イスラーム社会の研究はこれまで軽視されてきたこともあって、立ち遅れが目立っている。このため、文部省科学研究費の本プロジェクトにパレスチナ・イスラーム社会の研究を加え、研究会を発足させ、その研究成果を世に送り出し、多くの研究者の高議を仰ぐことにした。

この冊子におさめられているのは、イスラエルのイスラーム社会の変容、ヨルダン川西岸地域の政治エリートの動向、それにガザ地区の社会的変動であり、いずれも今後予想されるパレスチナ・イスラエルの政治・社会変動を考察するための一助となりうるのであろう。

1988. 2. 10